

第 1 回金沢大学子どもものこころサミット

本日は、金沢大学創基 150 年記念「第 1 回金沢大学子どもものこころサミット」にお招き頂き、ありがとうございます。金沢大学を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、三邊義雄実行委員長のもと、金沢大学における“子どもものこころ”の研究関連グループと文部科学省地域イノベーションクラスタープログラムの共催で、多くの皆様の御協力によりこのような新しい試みの研究会が金沢で開催されたことを心よりお喜び申し上げます。

特に、文部科学省科学技術・学術政策局 常盤科学技術・学術総括官にご来賓を賜り、また大学関係者、市民、企業、行政など多くの皆様にお忙しい中お集まりいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

皆様ご承知のとおり、“子どもものこころの医学”が、最近国内外において世論の大きな関心を得ております。深刻な少子化・人口減少問題や、最近の疫学研究で自閉症関連疾患の生涯有病率が実に人口の 1%程度にまで急激に増加していることなどの理由から、子どもものこころの問題は、今や 21 世紀の我が国における最重要課題の一つと言っても過言ではありません。

金沢大学は全国の大学に先駆けて、この問題に真剣に取り組んでおります。つまり、東田陽博教授が中心となつての 21 世紀 COE プログラムと子どもものこころの発達研究センター、大井学教授が中心となつての大阪大学・浜松医科大学・金沢大学小児発達学研究科連合大学院と RISTEX 研究プロジェクト、柴田正良教授が中心となつての JSPS 若手研究者大航海プログラム、そして三邊義雄教授が中心となつてのほくりく健康創造クラスタープロジェクト、などの大型プロジェクトでございます。

金沢大学の取り組みの最大の特徴は、倫理・教育・福祉などの人文科学の分野から、生物学・医学・工学などの自然科学までの幅広い文理融合の協力体制を基礎として研究を深め、高度専門職の人材育成、産学協同事業、市民参加の啓蒙活動を展開していることでもあります。

最後に、この機会に皆様には何とか時間をお作り頂き、古都金沢の風情とともに昨年完成したばかりのこの附属病院新外来診療棟をお楽しみ頂くとともに、総合移転をほぼ終えた角間キャンパスにも足をお運びいただければと存じます。

このサミットを機会に、金沢大学の“子どもものこころ”への取り組みが益々発展していくことを願って、私のご挨拶とさせていただきます。